

47年度第3回シグマ研究専門委員会議事録

日時 昭和47年12月18日(月) 11時15分～17時10分

場所 機械振興会館第9会議室

出席者	百田光雄(東北大)	飯島俊吾(NAIG)
	五十嵐信一(原研)	岩城利夫(MAPI)
	大竹巖(富士)	大野善久(原研)
	桂木学(原研)	後藤頼男(原研)
	瑞慶覧篤(日立・動燃東原代理)	竹腰秀邦(原研)
	塚田甲子男(原研)	更田豊治郎(原研)
	宝珠山健(MAPI・菅原代理)	西村和明(原研)
	松延広幸(住友)	山室信弘(東工大)
	山本正昭(日立)	

オブザーバー

大杉茂治(原研)

配布資料

1. 核融合の核データリクエストに関するシグマ委員会の覚え書
2. Safeguard の核データに関する作業グループの設置について
3. 熱中性子散乱核の file 作成に関する議事録抜粋
4. 「The Second IAEA Panel on Neutron Standard Reference Data」と第16回 EANDC 会合の資料リスト
5. Havens から塚田委員へのメモ
6. Schmidt から西村委員へのメモ

議事

1. アナウンス

1-1 FP核データのスペシャリストミーティング(西村)

資料6として配布したメモが Schmidt から来た。

F P核データの専門家会議が、1973年後半に、IAEAの主催で行なわれる予定。炉設計、遮蔽、保障措置等でのF P核データの重要性がレビューされる。

1-2 核データのアプリケーションシンポジウム(西村)

来年3月パリで開かれる。原研から更田委員が出席予定。

1-3 高速炉物理に関するトピカルコンファレンス(桂木)

原子力学会が主催して来年6月11, 12日の両日原研東海研で開かれる予定になっている。講演申し込みの切りは12月20日, 原稿の切りは来年1月末日である。

1-4 高速炉コンファレンス(桂木)

来年10月16日~23日東京で開かれる。これはIAEAのシンポジウムであり, 公用語は英語である。abstractの切りは来年3月15日, full paper の切りは9月1日となっている。参加費は1人 10,000円である。内容は炉物理的な色彩が濃く, ヘルシンキ会議におけるマイクロな核データの測定に関する報告の様な内容の講演は除かれる。

1-5 原子力シンポジウム(更田)

来年2月15, 16日に開かれる予定

2. CINDA及びCCDN Newsletterの配布先リストについて

先日CCDNのFröhner氏が来日し各地を回った際CINDA等の配布を希望する人や機関があった。その後Fröhner氏から現在の配布部数を10~20%増すのは容易だという意味の手紙が来た。また一方CCDNにある日本の配布先リストを調べた結果かなり古くなっており実状に合わない事がわかった。そこでこの際新たに日本国内の配布先リストを作り直したい。配布の方法としては, シグマ委員会に属している人には個人宛に配布する。それ以外の人の場合, できるだけ多くの人が見ることができるようするため各研究機関の図書室へ送付することを考えている。以上の事が西村委員

より報告された。

新たな配布先のリストは当委員会で承認されてから実行されることが確認された。次回あたりに新たな配布先リストが提案される。

以前CINDA 71以降のCINDAはそのサブメントだけが出版されるという話があったが、今回CINDA 72(全エントリーを載せている)が配布された。73年のCINDAはどのような形をとるかについて塚田、西村両委員が調べて次回に報告する事にした。

追記：その後1月8日に1冊のCINDA 72 - Supplement がIAEA より西村委員に配布されてきた。これによると、次のCINDAはCINDA 73になり、1973年8月に出版される予定。

3. JENDL作業の経過報告

ENDF/B-II 処理プログラムの整備は前回の委員会で報告済みである。その後JENDL 作成のための準備会(西村、桂木、後藤の3氏で構成)において、「JENDL 0次版の一例として²³⁵UをJENDL に変換する作業を核データ研究室で行なう」ことが決定された。現在、研究室で共鳴領域処理コードAQUARIUS (background 作成用コード)を作成しつつある。以上の事が西村委員から報告された。

4. 保障措置リクエストワーキンググループの発足

資料2をもとに、大杉氏から議題の件についての経過ならびに今後の計画案が示された。その後質議応答がなされ次の様な事が確認された。

- ワーキンググループメンバーとしては burn up , 計測, 核データ, 核化学関係の人々を考えているが、メンバーは未定である。
- 今年度は準備段階であり、実際の作業は来年度からになるろう。
- ワーキンググループの作業内容はリクエストリストを作るだけでなく、常時、関連文献を調査、検討する作業がある。
- 48年度からは他の専門部会と並ぶ新たな専門部会となるかもしれない。

- 現在、原研の JPDR, Burn up の研究者からその解析に必要な核データのリクエストが出ている。
- ワーキンググループの名称については、「核燃料計量技術開発の研究」として予算要求の方は出しているがこれをそのまま名称にする事は無理であろう。
- 47年度は核データ専門部会内の1ワーキンググループとして発足するがこれはあくまでも形式上の処置である。

5. 核融合のリクエストリスト

INDCのメンバーである西村委員は12月末までにINDCに日本からリクエストを提出する可能性について報告する義務がある。

国内の体制について委員長書簡を作成し伏見教授に渡したが、まだ返事を受けとっていない。資料1はその委員長書簡である。

なお最近 non-neutron 関係の話題が多くなって来た事について百田委員長は「JENDLが絡みついたのでJNDCはneutron と関係の深い部分の外まで間口を広める時期に来たと思う」という見解を出された。

6. 実験データのリクエスト (NEUDADA)

今まで実験データをCCDNにリクエストする際は核データ研究室の五十嵐委員を窓口に行なって来たが、このルートを通さず個人で申し込んだリクエストに対してもCCDNは応じている。そろそろリクエストの方法を変える必要があるのではないか。という問題提起が五十嵐委員よりあった。

討論の未JNDCとしては今まで通りの方法で行なっていく事が確認された。

7. WRENDAについて

11月10日付でSchmidtからWorld Request List for Nuclear Dataについて来年の1月15日までにコメントを送るよう、手紙がきている。これに対する具体的な検討は幹事会で行なう。

8. 人事 その他

8-1 人事

- 久武和夫氏（東工大）を委員にする。
- 核データ専門部会山本正昭氏（日立）の代りに真木紘一氏（日立）を専門委員とする（ただし事務手続きの都合で年度内はオブザーバーとする）

8-2 熱中性子散乱ワーキンググループにおけるファイル作成について、後藤委員から資料3の説明があった。ファイル作成について当委員会は異論のない事を確認した。

9. 塚田委員の出張報告

9-1 The Second IAEA Panel on Neutron Standard
Reference Data

9-2 第16回 EANDC 会合

以上2つの会合の内容について詳細な報告がなされた。

なお第17回の EANDC 会合は東京で行なう事が決定された。日時は1974年3月である。topical meeting の話題について Havens から塚田委員にメモ（資料5）が手渡されている。

10. 次回

2月項に行なう。

以上